

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

無気力に至る失意の原因は“全否定”にある

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【落ち込む従業員を元気付ける方法？】

ある経営者は、社内の“心のケア”問題で最も重要なのは『従業員が落ち込んだ時の接し方だ』と言われます。落ち込んだ人に、きつい言葉を投げ掛けるのはもちろん、慰めの言葉も逆効果になることの方が多いと捉えるからのようです。

【結果ばかりに着目し過ぎると…】

逆効果になるのは、“小さな”ミスが原因で失敗したような時にも、そのミスではなく、結果に目が向いて、時には、その失敗者の姿勢や人格まで否定してしまいやすいからでしょう。

結果が失敗なのに慰められても意味がありませんし、叱責されても取り返しがつきません。

【失敗時の心理状態を真逆にするポイント】

ところが、たとえば“顧客の名前の呼び間違い”から商談がギクシャクしてしまい、成果を出せなかったような時、“失敗の結果”ではなく“名前の呼び間違い”に目を向け直すなら、心理状態が真逆になることもあり得るのです。

同じ間違いを繰り返さないよう心掛け、もう一度別の商談に挑む気にもなれるからです。

【失敗要因を具体的に把握する姿勢の効用】

結果ばかりを見て落ち込むか、具体的な失敗要因に着目して、それだけを是正しようとするかでは、メンタル面ばかりではなく、行動意欲にも大きく影響して来るといことです。

しかも、商談でギクシャクした要因が、名前の呼び間違いだけではないかも知れないと思えて来ると、その要因確認のためにも、もう一度、同じ先に“別の切り口”から商談を持ち掛ける勇気が出るかも知れません。

【類似の事例を見て更に啓発された？】

その経営者は、そうした状況に似た事例を見つけ、全否定に向かいがちな実態と、そこから抜け出すための“実践的な工夫”の必要性について、改めて考え直すことができたのだそうです。

【マネジメント・レポートを購読できます！】

そこで、その事例をレポートとして、ご用意することと致しました。問題が起きた際の対処や社内の激励等に、ご活用いただきたいと思います。

詳しくは、事例レポートでご確認ください。有料定期購読希望をお知らせいただくと、pdf メール添付いたします。



不都合や失敗に際して、私たちには“うまく行っていたのに、小さな問題源が全体を台無しにしてしまった”と捉えるより、“不都合な結果を招いたこと自体”で、全体をマイナス評価する傾向があるかも知れません。

その結果、不都合や失敗等を引き起こした“自分”を全否定して絶望したり、自分を否定できずに“他者”を責めたりしてしまうのでしょうか。逆に、問題は“自分”や“他者”のような“全存在”にではなく、“小さな問題源”だけにあるという考え方をとれば、自然に前向きになれそうですね。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』に、ご意見や感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所
行政書士・特定社会保険労務士 邊見 努

TEL : 022-292-2351
FAX : 022-292-2352